

『灯灯ふらふら』

キタモトマサヤ

登場人物

タカシ 主人公、八十歳の元建築士)

サトム タカシと同年の友人、専業農家)

コウジ タカシとサトルの先輩、宮司の末裔)

トヨコ タカシとサトルとは同年の少女)

チエコ タカシの「近所の娘さん、結婚して家を出ている、今は六十代半ば)

コロス 任意の演者で演じる)

大阪府南部、和泉山脈の麓にある町。

令和の時代、この国に生まれて生きて幸せだったのかを、みんなが問い直しはじめる、そんな時代。

(イントロダクション)

ホワイト・ノイズ。

俳優たちの登場。

花火のような爆発音、いくつみそれは戦争の記憶) に続いて、

コロス 夏。

セミの鳴き声が頭の中でわんわん響く。

まぶたの裏側に投影されるのは古い色彩。

赤、紫、オレンジ、白、黄色、モネの庭で咲き誇るダリア、カンナ、ヒマワリ、そしてグミの木。

花と果実の、甘い香り。

印象派絵画の中央に配置されたのは、ひとり乗りの腰かけブランコ。

コロス、散らばると舞台中央に男がひとり、目を閉じ、腰かけている。

下手奥の少し離れたところにもうひとりの男が立っている。

(1)

コロス 盆踊りの日の朝、椅子に腰かけてうとうととしていたタカシの耳元に、懐かしい友がやってきた。

虫の鳴き声。

タカシ 古いもんやからきしむんやなあ、思うてたら、

サトル タカっちゃん、

タカシ 虫か。夏の虫。

サトル . . . タカっちゃん、

タカシ あっ、ごめん、呼んだ？

サトル キリギリスや。

タカシ ぼうっとしてた。

サトル 暑いしなあ。

タカシ 久しぶりや。

サトル キリギリスが元気なんは夏のあいだだけ。

タカシ あれ、いつから会うてなかったっけ、

サトル ながい、ながい、

タカシ ワシ最近、カラダの調子悪うてなあ、あんまし家から出えへんのよ。

サトル そやからボクがきたんやがな。

タカシ まあ、ありが、

サトル ここでええよ。

タカシ そんなことゆわんと、ひさしぶりやさかい。

サトル この家もなつかしいわ、

サトル、框に腰をかけている。

コロス ふたりは家が近かったこともあって、特に仲良しだった。

サトルは專業農家の次男坊だ。

田地畑を継いで母とふたりの質素な暮らし。

見合い結婚をしたが、すぐに離婚した。

理由はわからない。

きっとサトル自身にもわからないことなのだろう。

タカシの、椅子に腰をおろして正面を向いたままの姿勢は変わらない。

タカシ 鳴きやんだか。

サトル 臆病やからな。

タカシ ワシな、ブランコの音や思うてたんや、夢のなかで。

サトル キリギリスが、
タカシ ギーツ、チョンやろ。ギーツ、チョン、
サトル 錆びて、
タカシ 雨ざらしでな、
サトル トヨコとこのか、

微かな沈黙。

サトル トヨコとこの庭のよ、
タカシ トヨコ、かわいそうにな、
サトル しゃあないやん、て、思うしかない。しゃあない。
タカシ しゃあないんやろな。
サトル しゃあないさかいあそこにブランコが残ってる。トヨコ、ブランコ漕いでたんやろ。
タカシ トヨコはもう、
サトル でっかいケツ椅子に押し込んでな、キュークツになつてしもうたわ、キュー、クツツ、キュー、クツツ、って虫の鳴き声ちゃあうで。
タカシ 十八やぞ。

沈黙。

タカシ トヨコ、幸せやったやろか、
サトル ……幸せやなかったやろな。
タカシ ……、
サトル っっかし、暑いな、日本につぼん)の夏、キンチョーの夏、どどーん、
タカシ トヨコは幸せやなかったと思うんか、
サトル 本人に訊いてみなわからんけどな。
タカシ ……、
サトル 昔は窓も障子も全開にして、扇風機回しておばちゃんがシュミーズ一枚で転がってた。日本の夏の原風景、おばちゃん、シュミーズ、花火、風鈴、金魚鉢。おっさん、ステテコでもええんやけどな、うちわ、スイカに蚊取り線香、あ、またキンチョーや、どどーん。タカつちゃん、今夜行くんやんな、つきあうで。
タカシ どないしようかな、いろいろ痛いところあるし、それでも音頭が聞こえてきたら血イが騒いで、
サトル 血イヤな、日本人につぼん)の。

(2)

クロス 高校生のときの記憶。
夏休み。

トヨコ タカっちゃん、

の声で、空間が一変した。
タカシの後方にトヨコが立っている。
サトル、消えた。

トヨコ 盆踊り行くよな。

タカシ ん、いや、どうかな、

トヨコ ワタシ、行けることになったよ。

タカシ 無理すんなよ。

トヨコ 浴衣着てゆくんで見えてよ。新しい浴衣やねん。

タカシ そらゆかったな、

トヨコ、くすつと笑った。

タカシ てダジャレ、あはは。

トヨコ お盆でも勉強してるんやろ。

タカシ せえへんよ。今日の晩はホタル探しに行くんや。

トヨコ コウジさんと？

タカシ コウジさんはカンケイないよ。

トヨコ ひとりで？

タカシ うん。

トヨコ ホタルでどこにいるん？もしかして雨恋山まで行くん。

タカシ ここいらにもおる。ヘイケボタルや。平家、戦争で負けた方。蛍の光てゆう歌ある
やろ、

トヨコ うん、

タカシ あれはゲンジボタル。

トヨコ 勝った方な、

タカシ ゲンジボタルの光はな、本が読めるほど明るいけど、ヘイケボタルは身体もちっち
ゃいし、か細い光で、ちゆうことは、どう思う、

トヨコ え、ちっちゃん、ちゆうことは、見つけにくいな。

タカシ そう、

トヨコ 正解。

タカシ うん、周りが明るかったら姿は消えてしまう。街灯や家の明かりやらが邪魔をして、オスとメスが会合うこともできひん。

トヨコ フェロモン？匂いとかはないの。

タカシ 光と光でしか、結婚相手と出会われへん。それに、

トヨコ それに、

タカシ 一週間の命や。

トヨコ 命・・・、

タカシ 見つけたんや、一昨年おとしし、お父ちゃんを仏壇の前に寝かしちゃあるとき・・・。夜になってな、カナブンが部屋に飛び込んできて、ぶんぶん飛び回しうるさいやろ、そのうえ、ごつんごつん蛍光灯にぶつかってかわいそうや。いつもやったら捕まえて庭にほおるんやけど、その晩は、カナブンつかんで家を出た。灯のないところにはなしてやろう思てな。・・・現実から、・・・目をそらしたかったんやろな。

トヨコ そしたらヘイケボタル、

タカシ 無意識に探してたんやと思う。畳屋の角を曲がって、タチバナの工場の方へぬける道筋にある用水路、その途中の木イが生い茂ったところ、そこでカナブンをはなしてやった。そしたら、

トヨコ そこに？

タカシ ふっと光が瞬いた。いたんや。つかんでみたら、手のなかで消えた。

トヨコ ふーん、

タカシ コバヤシ神社の方から横山音頭が聞こえてた。

トヨコ いるんやな。

タカシ ・・・去年は見つけられへんかった。

トヨコ 今晚、探しに行くんやんな、

タカシ ああ、

トヨコ ホタル、見られるんやったら、ワタシも一緒に行こうかな、

タカシ ・・・ひとりで行くから、

ちよっとの間。

トヨコ な、盆踊り、おいでよ。ワタシ、カヨちゃんやミツちゃんらと青年団のテントに
いてるから、

タカシ うん、

トヨコ 関東煮かんとだき）食べにおいで。ワタシらも作るの手伝うたんやで。

トヨコ、消えた。

クロス トヨコはこの地域の地主だった名家のひとり娘。
屋根のある門構えと高い塀に囲まれた屋敷のお嬢さま。
勉強もできたし、どこがどうだとかはうまく説明できないけれど、
品があるのだ、
とタカシは思った。

ウシガエルの鳴き声。

(3)

クロス 好きだった先輩もきてくれた。

タカシ またこれも、

サトルがいる。

サトル ブランコのギイギイきしむ音に聞こえるか？
タカシ まさか。

そしてもうひとり、後方にコウジがいる。

サトル ハチマン池によおけおったよなあ。食用ガエルゆうたかて、だれも食えへん。増える一方。

タカシ 食うたちゅうやつ知らん、聞いたこともないわ。

コウジ ワイが食うたで。

タカシ コウジさん、

コウジ 京都のちょっと高級レストランで食うた。

タカシ 高級レストラン、

コウジ ちゃあう、ちょっと高級、レストラン。

サトル コウジさんのことやから、自分で捕まえて食うたんかと、

コウジ 油で揚げた足が皿に盛られちゃあって、甘辛いタレがかかった。

サトル どんな味？

コウジ ササミや。今でもハチマン池に棲んでるんやったら、今度捕まえて食うてみちや

ろかな。

サトル あ、おすそ分けは結構です。

コウジ 捕まえてからしばらくはキレイな水で飼うて、汚いもん出さしてしまわんな。

サトル ホンマに？ 食う気？

コウジ めんどくさいさかいやめとこ。

タカシ 今ではハチマン池、からからに干からびてごみ溜めや。

サトル イノシシのおすそ分けしてもらたときのあれ、コウジさんにゆわれたとおり味噌

漬けにしたらうまかったわ。

コウジ ワイが味噌漬けにしたやつをもって行ったんやろ。

サトル そやったっけ。オカンが漬けてくれたかと思うてたわ。

コウジ ほらこんなんや。ええかげんなやつちゃ。

タカシ サトルちゃんはまあ、調子のええやつやな。

サトル そうかな、ボク、そうかな、そう見える？ 調子ええ？ …いや調子悪いんや。

調子よかったらこの年まで、オカンとふたりで専業農家なんかしてるかいな。ボク、サラリーマンになったかったんやで、それなのに…、オカンもどんどん年とってくる。そら今はな、なんでも器械がやってくれるけど、それでも肉体労働や。重いもん持ち上げなあかんこともあるわな…、

と、突然の叫び。

サトル ちくしょう！

コロス サトルの兄は高校生の頃に家を出た。

農業が嫌で、都会でヤクザになったという。

後(のち)にわかったことだけれど、

ギャンブルにまみれた生活を送っていたのだった。

サトル ちくしょう、ちくしょう、ちくしょう、…、兄貴が帰ってきたんや。借金取り

に追われて逃げてきた。田んぼ売ってくれゆうた。田んぼ売ってままとった金

にしようにゆうた。全部やない、切り売りするだけやゆうた。長男としての取り分や、先にもらうだけやてゆうた。遺産の分前やゆうた。オカン、生きてるのに、オカンの前でゆうたんや。その日のうちに借金取りがきた。ほんまもんのヤクザや。

ボクは、ボクは、鎌を振り回して追い返した。稲刈り鎌や。

コウジ そら怖い。

サトル ギザギザや。のこぎり挽きになってるぞ。

タカシ うわ、

サトル ちくしょう、ちくしょう、ちくしょう、……。ちくしょう、ちくしょう、ちくしょう、……。帰れえ、今すぐに帰れえ、二度とくんなあ、

鎌を振り回し続けた。

タカシ 追い返したわけや。

サトル 鎌を振ったんは、……。ヤクザに向けてとちやあうで。

間。

サトル 結局、三反ほども売ったか、シロウさんとこに。

タカシ 知らなかったわ。

サトル その当時、シロウさん、区長さんでな、そのまんま田んぼ作らしてもろうた。外から見たらなんも変わらへんよ。小作人、年貢をおさめてまあす。タカっちゃん、訊くけどよう、人生楽しいか、ずっと生きてきて楽しかったか？ タカっちゃんは勉強ようできたしよう。ほんで、建築士になった。成功したよな。設計事務所の看板揚げて、お父ちゃんもきつと、草葉の陰で喜んでるやろ。

タカシ 大工仕事よりこの方がええと思うたんや。……。高いところから落ちる心配もない。

少しの沈黙。

サトル ボクラ、ふたりともあれやん、

タカシ なに、

サトル ひとりもん。いろいろあって、結局はひとりもん。タカっちゃん、楽しかったか。生きててよかったか。

タカシ そらあ、

コウジ 生きててよかったに決まってるんや。生まれてきただけで得してる。

サトル 損もしてるはずや。腹立つこと、辛いこと、悲しいこと、いっぱいある。悔しい日もある。ちやあうか？

コウジ ひっくるめてや、なにもかも均ならしてしもうたら、生まれてきたもんはみんな得したんや。

サトル ほたら、タカっちゃんは満足してるか、

コウジ しつこいのう、

タカシ なんでワシ？

サトル ボク、この国で生まれて、このムラだけで人生を過ごして……。タカっちゃんは大阪の専門学校に電車に乗って通うた。

タカシ サトルちゃんもたまには遊びに出るやろ。

サトル ちゃあう、遊びはちゃあう。生活や。おのぼりさんは別のもんや。わかるか？ボクは生活のすべてや、すべてをこの村で、米をつくって、畑耕して暮らしたんや。ムラから一歩も出てへんのや。すごいことやろ。

コウジ 遊びはちゃあう、か、

サトル 生活や。サラリーマンや、スーツ着て、革のカバンさげて、電車に乗って、颯爽と胸張って勤めるんや。

コウジ ワイそんなんでったいでけへんわ、ははは、

サトル コウジさんはええねん、コウジさんは、コウジさんやから。ボクはちっちゃいころからテレビで見えてあこがれとったんや、都会の生活に。それやのになんや、泥まみれの服着て、鍬担いで、握るハンドルは耕運機、歌うのは永遠に「嫁に来ないか」新沼謙治や。せめて「東京砂漠」歌いたかったわ。

コウジ いや、それもまたキツイ。

サトル それって幸せか？ ええ人生やっただてゆえるんか？ ボクには子供いいひん。ボクが死んでそのあとどうなるん。なあ、タカちゃん、盆やし、タクちゃんは帰ってきてるんか、アンタのひとり息子。どうやねん。もう、帰ってけえへんやろこのムラには。なあタカちゃんはどうするん？ これからどうなるん？

タカシ ．．満足してるよ、たぶん、

サトル たぶん、て聞き捨てならん、奥さんとあんなことがあってもか。

タカシ サトルちゃんも、新婚の頃はいろいろと楽しいこともあったやろ。

サトル 思い出しともないねん。

タカシ なにがあつたんか知らんけど、

サトル 知らんっ！

タカシ サトルちゃんさつき、タクヤのことゆうたやろ。このごろワシな、タクヤが初めてつかまり立ちしたときのことばっかし思い出すんや。あれは、うれしかったなあ。

ワシとタクヤとふたりで居間におつたんや。そしたらふいにな、タクヤが壁を伝って立ち上がった。ほんでワシを見てなあ、うれしそうな声を上げた。あれは、やつたぞ、ちゆうたんやろな。まだようしゃべらん時期やで。それでや、満面の笑みをうかべて、必死で、息を弾ませながら、壁に片手を預けて、カラダをささえささえ、ワシに向かって近づいてくる。ボクは立った。ボクは自分の力で歩いてるんや。喜びにあふれた無垢な瞳がワシの胸のに飛び込んできた。ようやったなタクヤ、すごいぞちゆうて抱きしめちゃった。うれしいでうれしい、はよそのことをかみさんに知らせちゃらなて心が躍った。そのときのタクヤの姿を思い出したら、今でもうれし涙があふれるほど幸せな気分で、もうそれだけで、ああホンマええことあったなあ、ワシの人生、て思う。

サトル ワシの人生ときた。「瞬の出来事やろ。」

タカシ ちいさいことかもしれんけど、

サトル コウジさん、なんかゆうたってください。

コウジ ジブンらワイを置いてきぼりにすんなよ。ワイかてひとりもんや。ジブンらはたとえ一回でも結婚したことあるやないか。

タカシ あ、すいません。

サトル いやコウジさんはヒッピーのひとやから、結婚とかカンケイないんかと、

コウジ 結婚はしたい、したいんやけど、その力がないのや。

サトル チカラ？

コウジ 経済力、な。

サトル そんなんゆうたらボクらみなおんなじようなもんで、

タカシ 大差ないですよ。

コウジ 息子を立派に育て上げたやないか。サトルちゃんは、いろいろあっても田畑でんぱた)を守っとるし、親孝行もしとる。

タカシ コウジさんはそもそも家族 っちゆうもんを必要としてへんように見えます。

コウジ そんなことあるかい、ワイとおんなじ価値観でもって生活できるオンナ、

タカシ 一緒に山で修業してくれるひとですか。

コウジ そんなやつおったら、そら結婚してやってもええよ。

サトル なんて上から目線、

コウジ 理想が高いんや。

サトル してください、てお願いせなあかん立場やろ。

タカシ そもそも修行の場は女人禁制ぢやいますのん？

コウジ そやから経済力や。経済力にオンナは惹かれるんやろ。

サトル ゆうてることちよつとオカシイよコウジさん、

コウジ ワイははなから経済力とは無縁のオトコや。

タカシ 偉そうにゆうてどうするんですか。

サトル 結局めんどくさいんでしよう。

コウジ そや。

クロス コウジさんはふたつ年上。

雨恋山登山口近くにしもた屋ふうの家がある。

父の代までは山頂にある雨恋山龍王社の宮司だった。

いまではコバヤシ神社に吸収されているが、

風習として残る八朔の行事の日だけ、

コウジさんも装束をつける。

タカシ コウジさん、あれ覚えてるやろ？

コウジ うんアレな、・・・アレってなに。

タカシ サトルちゃんとオレが中一のとき、

コウジ ああ、アレか、アレな、なんやったっけ、

タカシ 中学校からの帰り道、オオタニの上級生のひとりに絡まれて、なんのことやらわからんままに胸ぐらつかまれて、・・・サトルちゃんは覚えてるよな、

サトル もちろんや。

タカシ あれでオレらコウジさんのことを、尊敬するようになったんや。

サトル カッコよかったな。

タカシ 胸ぐらつかまれて、今にもどつかれそうになったその瞬間、どこからともなく風のように、

コウジ 生暖かい風がひゆるひゆるひゆるひゆる、

タカシ ひゆるひゆるひゆるひゆる、コウジさんが現れて、

コウジ うらめしやあ、

ふたり ちがうちがう、

コウジ 颯爽とやつらの前に現れて、

サトル 颯爽と現れて、

コウジ ベンケイガニのごとく、

サトル そう、弁慶、強いぞ、

コウジ 這いつくばったかとおもうと、やつらの前で土下座して、

サトル 土下座して、

コウジ (劇中劇のごとく、あるいは落語のごとく)

「すみませんすみません、どうもすみません、許してやってください、この子らはワイの後輩のもんです。ええ、コミヤのもんです。なに失礼なことをしたんか知りませんが、ふたりとも新入生で、まだなんもわかってないんですよ」

「新入生のくせに生意気なんじゃい」

「はい、そやから、この子らは、まだなんにも知らん、おぼこい、おぼこいんですよまだ。勉強もようできて賢いんです。コミヤの期待の星なんです。そやから、どうか、なにとぞ、こらえてやってつかあさい」

と頭をこう、地面にゴシゴシ擦りつけると、やつらは言った。

「よしつ、ならばゆるしてやろう。そやけどな、条件がある」

「条件、はい、なんでしよう」

「許してもらいたいんやったらな、オマエ、今ここでチンポ出して、見せてみい」
「げらげらげらげら」

これ、周りにいた子ども達の笑い声な。

「よう出さんのかい」

「いやさ、承知つかまつりまして候。この場をおさめる座興とあらば、今すぐこ

ここにポロリと出して、しかとお見せいたしました。それがし、なに露ほども厭いはいたしません。莞爾と笑って喜んで、おのおの方、お粗末ながらとっくりと、いざ、御覧じめされい」

と見得を切る、

サトル あかん、あかんて、

コウジ めされい、やあ、

タカシ コウジさん、ちゃあうでしょ。

コウジ ちゃあう？・・・ちゃあうかったか。今は、ヒガシ保育所の学芸会でやったや

つやったかいなあ。

タカシ だったいちゃあう。

と、突然の怒声。

空気が一変する。

コウジ おんどりゃあ、なにさらしとるんじゃい！放さんかい？こら？放せてちゅう

とんじゃい！・・・殺されたいんか、・・・おお？殺すぞこら？

コロス ふだんはやさしさに満ちた人柄のコウジさん、

暴力を受けているふたりに目をとめた瞬間、

狂気を感じさせる激昂ぶりをやつらの前に立ちはだかった。

一瞬にして固まり、顔色を変え、ちりぢりに逃げて行ったやつらたち。

このひとはいざというときに裏切らない頼りになる先輩だ。

ふたりは確信した。

コウジ ワイは喧嘩なんか大っ嫌いや。いじめをするやつも嫌い。喧嘩するような野蛮なひ

といややわあ。それでもな、自分が巻き込まれて喧嘩せなあかんとなったらな、相

手を殺すつもりでかからんといかん。そやないとわがが殺されてまう、そう思うて

生きてきた。戦争が、そうやる。そいつが、ワイらの目の前にあった。そやけど、

今はもうワイはな、誰かと、たとえ戦争になったとしてもや、もう、わがはなんも

抵抗はせんとこっちゅう気分やねん。あきらめてしようた、ちゅうたらええんかい

な、気がついてしようた、ちゅうか、争うてもしやあないやる。殴りたいだけ殴ら

しちゃうあ、て思う。ほしたら、やられたらやられただけこっちは美しゆうなるっ

ちゅうか、浄化されるっちゅうか、透明になってゆくっちゅうか、そういうふう

に思えてきてしようて、まな板の上の鯉の心境になって、殺されちゃう、て思う。無

抵抗主義や。マハトマ・ガンジーや。

タカシ みながガンジーやったらそもそも戦争なんかならへんのかなあ。

コウジ いや、なるよ。ニンゲンは、それでも、やるよ。ガンジーかてやるときはやる。

ちよっとの間。

コウジ タカっちゃん、今年の八朔にはこいよ。ワイの装束姿、まだ見たことないやろ。

サトル ボクも行くしよ。雨恋山のとっぺん、龍王神社。

コウジ 夜明け前の暗いうちから提灯さげて行列するから。

サトル タカっちゃん、ボクはちっとも楽しいことなんかなかったわ。

タカシ ホンマにそうか？ そう思うか？ そんなことないやろ、なあ、思い出してみ、こ

うやって久しぶりにしゃべってるのも楽しいやろ。ちゃあうか？ 思いだそうよ。なんかあるて。

※このあたりで注釈を加えておくが、

タカシはここまで、腰をかけたまま立ち上がることは一度たりともなかった。

そしてこの後も、ト書きによる指示があるまで、腰をかけたままなのだ。

(4)

風鈴。

クロス 数日前の出来事。

夕立雨。

傘をさしたチエコが一目散にやってくる。

と、その途中、

雨音、消えた。

アレツと気がつき、天を仰ぎ、傘のしずくを弾く。

じつくりとマイムで演じられる。

すぐさま、陽光が差し込んでくる。

タカシ まぶしいな。またお陽さん照ってきた。(目を閉じて) 瞼を透かしてカラダの奥深くまで、光が差し込んでくる。

チエコ、たたんだ傘を手にして、

チエコ おにいちゃん、・・・入るでー？
タカシ ・・・ああ、

おにいちゃん、と呼んでいるが兄妹ではない。幼いころの呼び方のままなのである。

チエコ えらい雨やったがな。洗濯物干したままちゅうか思うてとんできたら、やんだ。
ウチ、なにしにきたんやちゅうハナシや。

タカシ なにしにきたん。

チエコ そやねん。

タカシ 洗濯もんくらいわがで取り込むよ。

チエコ 無理無理、

タカシ それぐらいできるよ。

チエコ 洗濯物は干してなかった。ちゃあう？

タカシ なんや、探偵さんかいな。

チエコ 当たったやろ、て、見たらわかるがな。

タカシ ワシのことにな、そんな氣イつこうてもらわんでもかまへんやで。

チエコ 氣イなんかつこうてないわ。

タカシ おぼちゃんの世話をよおしたってや。

チエコ 昼寝中。

タカシ ああ、それで、

チエコ お母ちゃん、達者なんは口だけとちゃあうで、病氣ひとつせんわ。なんでも自分ですてくれる。

タカシ ほたらワシ、なんも自分ででけへんでチエちゃんにきてもうてるみたいに映るやないか。

チエコ そういうことやうて、ウチ、世話焼きやねん、お母ちゃんに似て、

タカシ 口もな、おぼちゃんに似て、

チエコ そやねん、・・・てウチ、うるさいんか？ じゃま？ 迷惑？

タカシ いや、活氣があつてええな、

チエコ ヤスダさんとこのハナシ聞いた？

タカシ ヤスダ呉服店、

チエコ 店閉めたで。

タカシ 開店休業状態やったもんな、ワシとこと一緒や。

チエコ 子供の制服とか祭のハッピとかも扱うとったやろ、この辺の子、買うところあらへんようになるがな。駅前へイハチまで行かならん。

タカシ この辺で子供で見たことないなあ。

チエコ ……確かに。
タカシ いるんやろか。
チエコ そらいてるやろ。
タカシ 子供会はどうなってる？
チエコ ウチはもうコミヤのニンゲンとちゃあうしなあ。嫁に行ってから四十周年記念や。
タカシ 子供が消えた！
チエコ ……こわいことゆわんといえな。最近の子は家のなかに閉じこもってるんやわ。

タカシ ……、

チエコ どないしたん、おにいちゃん。

タカシ いや、笑うで。

チエコ 笑うてないやん。

タカシ ウチの子もな、もう長いこと、顔を見てない。

チエコ タクちゃん元気にしてるん？

タカシ してるんやろな。

チエコ 偉うなって、

タカシ 面倒みるから一緒に住もう、ゆうてくれるんやけど、

チエコ あら、よかったやない。

タカシ ワシは生まれ育ったこの土地を離れとうない。この年になってから東京なんぞで暮らせるもんか。次に会うのはワシの葬式の日や。

チエコ いややわ、憎まれ口ゆうて。ウチ知ってるで、別れた奥さんと会うのがいやなんやろ。タクちゃんとこ行ったら顔合わすこともあるかもしれん思うて、

タカシ 許しとらんからな。

チエコ ほらあ、

タカシ ああ、びっくりするなよ、空き家地図つくってみたんや。

チエコ 空き家地図 ……、ってなに？

雷鳴。

タカシ またひと雨くるなあ。

風鈴の音。

遠雷。

タカシ 村なかのな、空き家になってる家をな、一軒一軒、黒のサインペンで塗りつぶした。

チエコ . . .、
タカシ ほんでな、年寄りのひとり住まいの家、それはバツ印、

息をのむ間。
遠雷。

チエコ ほたらウチのおかあちゃんもおにいちゃんともバツ印やん。
タカシ そうや。そうしたらな、黒とバツ印の家、あわせてほしい六割強や。

いきなり大粒の雨音。

チエコ また降ってきた。

間。

チエコ やむのを待つわけにもいかんし、帰るわ。雨が降ったらやってきて、雨が降った
ら帰ります。 . . . 雨女やがな。

と様子を伺い、傘を広げ、飛び出した。
道中に雷鳴。

「ひゃあ」と悲鳴をあげた。

クロス 黄昏色の夢のなか、

植物たちは、花を咲かせ果実を実らせる夢をみる。

深い緑色に埋もれた無人の家、

玄関には菊の紋章入りのプレート、
遺族の家。

雨音、ゆっくりと消えてゆく。

(5)

クロス 小学6年生のとき、こんなことがあった。

タカシとサトルが向かい合っている。

そこへ、

トヨコ こんにちは、

タカシ ……なんで？

トヨコ ……なあ、ウチに遊びにおいでよ。

サトル あ、トヨコや。

タカシ 今、サトルちゃんと遊んでるさかい、

トヨコ サトルちゃんも一緒に、

サトル なんでオンナと遊ばらんねん。

トヨコ ああ、ウチにブランコができたの。

タカシ それがどないした、

サトル タカっちゃんのお父ちゃんが作ったやつか。

トヨコ そう、タカっちゃんのお父ちゃん、すごいなあ。そやから乗りにおいでよ。

サトル どんなブランコなん、

トヨコ 椅子になってるの、ベンチみたいに、

サトル 立ち漕ぎはでけへんのか、

トヨコ ー、でけへんけど、ごっついええブランコやで。

サトル ぐんぐん漕いで、前へ、前へ、前へ、上へ、上へ、上へ、空へ、空へ、空へ、空

へ、そんなやないとあかんがな。

トヨコ いけるよ。

サトル えっ、いけるんか、

トヨコ カヨちゃんとミッちゃんがきてるねん。それで、男子も誘おうてなって、

サトル カヨコとミチヨが空飛んだんか。

トヨコ ミッちゃんな、すごいで、椅子に座ったまま、じょうずに漕いでな、

サトル ケツで漕ぐんや。

トヨコ 背中が地面と平行になるくらい、九十度、

サトル 九十度、

トヨコ そのまま手エ放したら空飛べる。

タカシ そんな乗り方すんなや。

トヨコ え、

タカシ ウチのお父ちゃんの作ったやつ、

トヨコ 頑丈にできてるから、

タカシ 頑丈か知らんけど、腰かけのついてるブランコはそんな乗り方するもんとちゃあ
うやる。

サトル ブランコはブランコやで、(トヨコに)なあ、

トヨコ ワタシ、家うち帰って、ミッちゃんにゆうてくる。

サトル トヨちゃんはそんな乗り方せえへんやろ。

トヨコ うん、
サトル お嬢さんやから。
トヨコ そんなんちゃあうて。
サトル ボクもトヨコとこ行こうかな。
トヨコ うん、おいで。
タカシ オンナと遊ぶんか、
サトル どんなブランコか見たいしよ。
トヨコ ええのんやで、なあ、
タカシ なあ、てなんでオレに相槌打たそうとするんや。
トヨコ そやかてタカっちゃんの、
タカシ まだ将棋の途中やんか。
サトル ああ、それはもうボクの負け、
タカシ 投げるんか。
サトル 負けでええゆうてんねや。
タカシ . . .、

にらみ合いになった。

トヨコ やめて、
タカシ ミチヨにゆうてくるんとちゃあうんかい、
トヨコ . . .うん、
サトル トヨコ、行こ。
トヨコ タカっちゃん、どないしたん？
タカシ どないもせえへん。
トヨコ ほな明日あした、また、学校でな、
サトル ブランコちよつと乗ったら帰ってくるて。ほたらまた将棋指そ。
タカシ . . .、

サトル、トヨコ、消えた。

錆びたブランコのきしむ音。だれが漕いでいるのか。

タカシ、目を閉じ、眠っているようにも見える。

クロス わかっている、わかっているのだ。
父がトヨコの家の庭にブランコを作った。
事実はそれだけなのに、
屋敷の門構えに威圧されるような、

永遠の主従関係がそこにあるような、
そういう家と家の関係性が割り切れなくて、
これはコンプレックスというしろものだ。

錆びたブランコの軋む音、消えた。

(6)

サイン・ウェイヴがフェイド・インする。
タカシの後ろで、

トヨコ　・・・タカっちゃん、

サトル　えっ、タカっちゃん？

トヨコ　うん・・・、

サトル　そやったんか・・・、えっ(振り返って)あ、うそ、あそこにいるやん、・・・、
・・・、タカっちゃん、

トヨコ、いったん後ろを向いて、そして立ち去る。

サイン・ウェイヴ、消えた。

クロス　中学2年生のとき、こんな会話があった。

サトル　やあ、

タカシ　今の、トヨコやったん？

サトル　え、ああ、まあな、

タカシ　なんや、なにハナシしてたん、なんか怪しいな、

サトル　理科の研究発表のことな、おんなじ班やねん。

タカシ　ババ先生の、

サトル　そう、

タカシ　身近の生物に関する自由研究っちゅうやつやろ。

サトル　それぞれ、

タカシ　ウチのクラスでもやらされてる。

サトル　やっぱり、

タカシ　オレ、ひとりでやるねん。

サトル　なんでひとりでやるの。

タカシ　オレが提案したんや、班のみんなに。ほしたらみんな喜んでた。ひとりでやる方が楽やろ。ほんで最後の研究発表はみんなで分担してやる。先生には内緒やで。

サトル うわあ、タカっちゃんとおんなじ班やったらよかったのになあ。
タカシ 組がちゃあうからしようがない。

サトル ボクらの班はな、トヨコが強引に決めてしもうたんや。
タカシ なにに、

サトル ダリア、花のダリア、そのダリアがトヨコとこの庭によおけ咲いてるんやと。ほんで見に行つたよ。

タカシ 庭に入れてもうたん、

サトル 広い、花がいっぱい。池もある。錦鯉も泳いでる。そんでダリアの花はな、色や形、それから花びらの枚数もそれぞれ違うんやと。それを、調べようて。

タカシ トヨコがひとりでやったらええんや。

サトル そやろ。ボクはダンゴムシの足の数を数える方がええと思うな。

タカシ みな一緒やろ。

サトル いや、わからんで、トヨコとこの庭にはな、平べったいダンゴムシもおるんやで。

タカシ サトルちゃん、あのな、平べったいのはワラジムシや。

サトル わらじ、ワラジムシ、そんなおるん、よう知ってるな、さすが、最近成績上げてきただけあるわ。二年になって急にガリ勉グループや。

タカシ ガリ勉なんかしてへんで、

サトル ミクニめざしてんのやろ。

タカシ 工業高校や。おんなじ家を建てる仕事するんやったら、大工やのうて建築士になりたいと思う。

サトル うわ、腹立つわ、ボクのとこみてみい、一町歩の田んぼと畑かかえて、農家やるしかないんやで。

タカシ 兄ちゃんは今、どないしてん？

サトル 知らんよ、どこにいるんかもわからへんわ。兄貴のことは聞かんといてくれ。

タカシ すまん、

サトル タカっちゃんは目標があつてええなあ。

ちよつとの間。

サトル ま、トヨコ、身体弱いし、自分とこの庭でできるのはええよな。あのな、トヨコんとこの庭でな、ブランコ、まだあつたで。ちよつと錆びてたけどな。あれはタカっちゃんのお父ちゃんの形見やなあ。

サトル、消えた。

錆びたブランコのきしむ音。

タカシ コミヤの会館、タミヤさんとこ、カワイさんとこ、シゲオさんとこや、ヨシジさん
ところも、お父ちゃんの仕事や。それから、サノやコツミにも、お父ちゃんが残した
もんやったらほかにもいっぱいある。そやけど、・・・そやな、

錆びたブランコのきしむ音、消えて、

(7)

タカシ コウジさんと最後に会ったのはもう、半世紀も前やったとは。

後ろに、コウジがいる。

以下は、上方漫才のごとく、

コウジ タカっちゃん、あのなあ、頼みごとがあるんや。

タカシ なんですか、ワシにできることやったら、

コウジ 金ちゃあうで、

タカシ わかっています。

コウジ ワいなあ、明日から家を留守にするんや。

タカシ またですか。

コウジ またやねん。

タカシ 例のやつですね。

コウジ 例のやつやねん。

タカシ 例のやつてなんですか。またやっちゅうことはつまり、マタですか。

コウジ マタやねん。

タカシ マタにカンケイあるんですね、インキンとか、

コウジ マタもカンケイあるような、ないような、あるような、あるような、あるような、

タカシ はい、

コウジ なにぼやっとしとんねん、そこで、あるんかいっ、ってツッコまないかんやろ、詰
めがあまいな、まだまだ未熟者やな。

タカシ すみません、未熟者でした。

コウジ この未熟者め。

タカシ ははあーっ、

コウジ あのな、ワイの留守のあいだに尋ねびとがくるかもしれんのや、

タカシ はい、

コウジ タカっちゃんところにな、

タカシ 借金取りですか。

コウジ 金ちゃあうてゆうてるやろ。

タカシ 要するにまた、山に修業に入るわけですか。

コウジ そやねん、またやねん、いや、そやけどそれは、

タカシ それは、

コウジ それはまあ、ナニやねんけど、

タカシ ナニですか、白い装束をつけて、滝に打たれたり、山を走ったり、

コウジ そんなことワイがゆうたことあったか、

タカシ 修行でしょ、

コウジ 生きることこれすべてが修行や。ちゃあうんかい？

タカシ そうです。

コウジ やろっ、

タカシ コウジさんくらいになったら山伏の修行なんか修行のうちにはいらんと、

コウジ ま、そういうこっちゃ、ということにしといてくれや。

タカシ なんか、曖昧模糊としてきましたよね。

コウジ 山伏の白装束、知ってるか。あれはな、死に装束や。

タカシ 死に装束、

コウジ 俗世間を離れて死の世界に入るっちゆうな、

タカシ 死の世界に、

コウジ 山ん中は異界や。いっぺん死んで、山からエネルギーをいただいて、ほんでまた生

まれ変わるんや。どうや、曖昧模糊が晴れてきたやろ。

タカシ なんとなく、晴れてきました。

コウジ ほんでな、タカっちゃん、あのなあ、頼みごとがあるんや。

タカシ なんですか、ワシにできることやったら、

コウジ 金ちゃあうで、

タカシ そらよかった。

コウジ ワイなあ、明日からしばらく家を留守にするんや。

タカシ またですか。

コウジ そうやねん、またやねん。

タカシ 例のやつですね。

コウジ 例のやつやねん。

タカシ 例のやつてなんですか。またやっちゆうことはつまり、マタですか、毛ジラミと
か、

コウジ マタのハナシもカンケイあるような、ないような、あるような、あるような、あ
るような、

タカシ あるんかいっ、

一瞬の間があつて、

コウジ よくできました。

タカシ ありがとうございます。で、話は戻りますが、マタのハナシつちゅうのはなんですか。

コウジ ちょっと困つてな、

タカシ 金ですか。

コウジ 金ちやあうてゆうてるやろ。・・・オンナ、

タカシ オンナ、

コウジ のようなオトコがな、

タカシ のようなオトコ、

コウジ こんな、ミニスカート穿いて、

タカシ オトコが、

コウジ そいつが訪ねてくるやもしれん。

タカシ だれを？

コウジ キミを、

タカシ なんて、

コウジ なんてやるな、

タカシ コウジさん、

コウジ いや、オマエもな、アレやろ、

タカシ アレですわ、そやけどオトコて、

コウジ アレて、あれやろ、アレしたやろ、嫁さんに逃げられた、

タカシ 追い出したんです？

コウジ すまんすまん、そういうことをゆいたかったわけやのうて、タカちゃんも大変やつたな、まあ興奮すんな、

落ち着くための間。

タカシ 頼みごとでいったい、

コウジ そうそう、それやそれ、それやねんけどな、んー、・・・オンナ、

タカシ のようなオトコが、

コウジ そいつが、

タカシ ワシを訪ねてくる。なんで？

コウジ ワイを探しに、

タカシ 借金ですか？

コウジ 金ちやあうてゆうてるやろ。うーん、わからんかな、

タカシ 聴こえませんでした。
コウジ おっきい声だしてんねやけどなあ。まあそういうこともあるわけや。

結局 「ごによごによ」しか言っていない。

タカシ それがなんで家うちにくるんですか、

コウジ さて、そこや、・・・、

タカシ ・・・、

コウジ ワイ、コウジで名乗ってしもうてたし、そこでオガワコウジ、て、親孝行の孝に、歴史の史で、コウジ、な、すまん、タカっちゃん、タカっちゃんの名を騙った。

タカシ はあ？

コウジ メグミがきたら、

タカシ メグミさん、

コウジ 兄は死んだとゆうてくれ。

タカシ 兄、

コウジ そや、

タカシ ワシが弟ですか。

コウジ そや、弟みたいなものやったやろ、な、いや、それはゆい過ぎか、思い上がりも甚だしいか、

タカシ メグミさん、そうゆうたら納得してくれますか。

コウジ 素直なええ娘（こ）やさかい、

タカシ 好いてるんですね。

コウジ う、・・・、

タカシ 別れる必要はないでしょ。

コウジ ・・・怖なってきた。

ちよっとの間。

コウジ ・・・ワイなあ、罰（ばち）が当たるかもしれん。

タカシ 当たりますよ。

コウジ 当たるんや、でつたい。そやさかいこつちやから、（比売神さまに）罰当てもらいに行こう思うてる。

ちよっとの間。

コウジ つねづね山に感謝してきたはずのワイが、山を痛めつけて生きてきたんや。山肌

を切り裂いた。交通の便利のためにな。ニンゲンさまが車を走らすためにや。トンネル工事もやった。送電用の鉄塔の土台も作った。木イを伐採するところから始める。なんのためにや。日本国民みんながええ暮らしができるようにや、ってホンマにそうやるか。ええ暮らしってなんや。遊園地行って遊んだり、うまいもん食うたりすることか。ワイ、そもそも山の暮らしが好きで、山でしか生きられへんのに、金のために山を傷つけて生きてきたんや。自然破壊のお先棒担いだんや。そんなニンゲンが修験道の道に入ると決めた。オカシやろ。笑うてくれ。

タカシ
いや、

コウジ
ワイ、住み込みの工事現場を転々としてきた。金稼いでこっちや帰ったら訊かれるわな、えらい長い間どこ行ってましてん、て。修行です、ゆうたら、みな信じてもうた。ほんの冗談やったのによ。ワイ、山の神さんに代々仕えてきた家に生まれたもんやから、みなワイが一年の半分は山で修行してると思うてる。思うてたやろ。

タカシ
はい、

コウジ
ワイもそんな氣イになってたわ。そやけどそれはウソついてるつちゅうこっちや。それが、積もり積もって、なんか氣持ちが重たかった。踏ん切りがついたんや。今から山に入る。まずはわがとこの社(やしろ)に挨拶して、そこから一気に山駈けや。ひとのでったい入らんとこを往く。いつ帰るかは決めてない。

タカシ
．．．

コウジ
これ、メグミがきたら渡しちやってくれ。

タカシ
通帳ですやん。

コウジ
印鑑もある。頼んだで。

コウジ去ろうとする。

タカシ

いやちよっと、

コウジ、立ち止まった。

コウジ
ワイよう、なんでコウジつちゅう名前かわかるか。

タカシ
なんでって、．．．親がつけてくれた名前やないですか。

コウジ
はははははは、．．．

と、消えた。

タカシ

コウジさんっ、コウジさんちよっとっ、

タカシ、椅子から立とうとするが、立てない。

クロス コウジさんはそれっきり帰ってこなかった。
メグミというひともついに現れなかった。
やがてコウジさんの家の周囲には草木が生い茂り、
蔓草の緑に包み込まれ、
山の一部となった。

サイン・ウェイヴの音。

(8)

タカシ、目を閉じ、ぼんやりしているような、眠っているような。

トヨコ ……タカっちゃん、
サトル えっ、タカっちゃん？
トヨコ うん…、
サトル そやったんか…、えっ、(振り返って) あ、うそ、あそこにいるやん、…、
…、タカっちゃん、

トヨコ、いったん後ろを向いて、そして立ち去る。

サイン・ウェイヴ消えた。

タカシ、目を開いた。

タカシ あの時、確かにタカっちゃんと聞こえた。なんでワシの名前がアイツらの口から聞こえたんやろ。ワシの名前のその前に、どんなことばがあったんやろか。あのふたりは、なにをはなしとったんや。そのあとのサトルちゃんの状態もなんかひっかかる。今になってあの記憶が、夢のなかでふくらんでゆく。ああっ、暑いなあ。のどが渴く、

サトル タカっちゃん、

タカシ おお、

サトル 昔はよかったな。

タカシ (寅さん) それを言っちゃあおしめえよ。

サトル ボクらの子供の頃な、お盆の夜にはここいら辺、提灯の明かりでいっぱいやった。家々の軒先に提げられて、盆踊りの櫓までずうっと続いてて…迷子にならん

と行けた。コバヤシ神社行くのに迷うもなにもあれへんけどな。そやけど今は、なんもない。会場のなかにだけ、飲食店や地元の会社の宣伝灯がやたら明るい。ひとが減ったからや。

サトル それやのにどこぞからわいてくる。

タカシ 里帰りしてくるのや。

サトル それだけやないで。

タカシ ああ、それだけやないな。

サトル ボクもぎたし、コウジさんも。タカちゃんが会いたい思うてくれたさかい。

わずかな間。

タカシ 田んぼがなくなった。

サトル ウチのは草ぼうぼうの野っぱらや。

タカシ 整地されて、積木みたいな注文住宅が建って、・・・あれな、カタログ見て選ぶや。

サトル 商売あがったりやな。

タカシ そいで、子供が大きゅうなったら出て行って、家には年寄りだけが残って、ほんで、

サトル 子供おつてもおらんでもな、結局はおんなじか。

タカシ おんなじや。

わずかな間。

タカシ 訊くけどな、あの時、トヨコとなに話してたんや。

サトル はあ？ あのととき、トヨコと？

タカシ 高三の、夏休みの終わりのことや、

サトル 高三の、夏休みの終わり、そんな古い昔のこと、

タカシ ・・覚えてないか、・・覚えてないやろうなあ、

サトル 覚えてるよ。

タカシ 覚えてる、

サトル ああ、はつきりと覚えてるなあ。

タカシ この年になって突然、気になりだしてなあ、ずうっと心のどっかにひっかかってたんやろうな。決まって夏の寝苦しい夜の明け方、総天然色の夢になって甦る。

サトル ブランコの音とともに、

タカシ あれはなんやったんか、ワシにとって、どんな意味のあることやったんやろうか、知りどうしてしゃあないようになって。そやけどあの当時は、なんかそのことに触れ

たら自分が傷つくことのような気イして、訊く勇氣もなかった。後悔した。後悔したまま、確かめられはいられへん。

サトル 年を経たら、臆面もなく訊けるようになった。

タカシ 恥ずかしい思いもつらい思いも、いろいろと経験してきて、鈍感になるっちゅうか、ずうずうしゅうなってる。この世界にとつてなんの意味もないことでも、正解を知らんままあの世へ行きとうないんやな。

サトル あのとぎ、．．あのとぎか、．．あのとぎはボクもちよつと気まずうてな、すぐそこにタカっちゃんの姿が目に入ったさかい。

タカシ 聞かしてほしい。

サトル しゃあないなあ。お見通しか。まいったわ。

わずかな間。

サトル そやけどタカっちゃんには関係ないことなんやで。

タカシ え、

サトル 告白されたんや、

タカシ ．．、

サトル ボク、

タカシ ．．、

サトル トヨコに、

タカシ ．．そうか、

サトル ガツカリか、

タカシ いや、

サトル もしかして、

タカシ アホやなあ、

サトル あはは、仲良かったしなあ、トヨコと、タカっちゃん、

タカシ ワシが？

サトル 良かったよ。

タカシ そうか、そうやったかなあ、

サトル あのとぎ、．．、

トヨコが現れた。

景色が変わる。

サトル なんや、こんなとこで急に呼び止めたりして、

トヨコ ちよつとお願いしたいことがあつて・・・サトルちゃん、タカっちゃんと仲ええやろ。

サトル ……そうや。

トヨコ 組もおんなじやし、隣組の、

サトル ああ、2組や。

トヨコ あのな、ワタシな、

サトル なに、どないしてん、

トヨコ、学生カバンから封筒を取り出した。

トヨコ ……これ、

サトル ボクに、

トヨコ ……、

サトル いや冗談冗談、タカっちゃんに渡すんか、

トヨコ お願い、

間。

サトル わかった。ラブレターやな。

トヨコ そんなとちやあう。

サトル ちやあうんか。

トヨコ そんなんやのうて、

サトル なに？

トヨコ 知ってもらいたいことがあつて、

サトル タカっちゃんに、

トヨコ そう、

サトル そうか、なんか知らんが、渡したらええねんな。

トヨコ、タカシの姿を目にして、

トヨコ ……タカっちゃん、

サトル えっ、タカっちゃん？

トヨコ うん・・・、

サトル そやったんか・・・、えっ、（振り返って）あ、うそ、あそこにいるやん、・・・、
・・・、タカっちゃん、

トヨコ、いったん後ろを向いて、そして立ち去る。

サトル そやったんか。

クロス 渡せなかった。

トヨコがタカシを好いているということを、
現実として突き付けられたことが癪だった。

音楽 1。

トヨコの影、

トヨコ オガワタカシさま。

突然の手紙で驚かせたことと思います。

思えば長いお付き合いですね。ヒガシ保育所からツダ小学校、中学校と、ずっとずっと一緒でした。何度も同じクラスになりましたね。子供会でも、ミサキ公園や、淡路島に海水浴に行ったときも一緒でした。私はそのころの写真をときどき取り出して眺めては、ああ、あの日は楽しかったなあと涙をこぼしてしまいます。泣き虫と笑わないでください。

私は身体が弱くて、よく熱を出して倒れるのはご存じのことかと思えます。先日、その原因が分かったのです。そのことも含めて、一度ゆっくりとお話をしたく、お手紙差しました。

返事は要りません。

だけど、だけど、盆踊り会場だったコバヤシ神社の境内で、日曜日の朝、偶然のように出会えたらうれしく思い、そのことを念じつつしたためました。

どうか願いが叶いますように。
かしこ。

追伸、

私もずっといたわけではないのですが、盆踊り会場ではお顔を拝見することができませんでした。そうそう、ヘイケボタルは見つかりましたか。

トヨコの影が消えた。

音楽 1、フェイド・アウト。

クロス サトル、開封して、読んでしまった。

サトル ラブレターちゃあうて、これどっからどう読んでも、れっきとしたラブレターやろ。なんでボクに渡したん。住所もわかってんやから切手貼って、いや家知ってんやから切手貼らいても、自分でポストに入れたらええやんか。なんでボクをキユービッドにしたいわけ。ホンマ、オンナっちゅうやつはなに考えてるんか、さっぱりわけがわからんわつ、・・・日曜日も過ぎてしもうたし、もうタカっちゃんには渡されへん。

サトル、消えた。

(9)

クロス 昨日、こんなことがあった。

蝉時雨。

タカシ、腰をかけたまま、正面を向いている。

チエコ、やってきた。

チエコ おにいちゃん、表のアレなあ、
タカシ アレ？

チエコ オガワタカシ建築設計事務所。

タカシ ああ、アレなあ、

チエコ もうええんとちゃあう。

タカシ ええとは？

チエコ はげちよろけたあの看板、読めるのウチぐらいやで。

タカシ ……そやな、

チエコ ウチ、悪いことゆうた？

タカシ いや、

チエコ なんか、しょぼんとした。

タカシ 年取ったなあ思うて、

チエコ お互いさま。

タカシ チエちゃん、よちよち歩きの頃覚えてるで。

チエコ そんなんはゆわんでええの。これ、冷蔵庫に入れとくな。肉じゃがとアジの南蛮漬。

チエコ、勝手知ったる家の冷蔵庫を開けて、タッパーをふたつ、並べながら、

チエコ 相変わらずろくなもん入ってないなあ。佃煮とか、漬物とか、塩辛いもんばっかり食べたたらあかんで。いっそのこと離乳食にしたら、

タカシ まだ歯アが残ってるんやさかい。

チエコ 今度持ってきたるか、

タカシ なにを、

チエコ 離乳食をやがな、

タカシ えげつないことゆうおばはんになってもうたな。

チエコ 周りがそうさせる。

タカシ 表の、看板な、そのままにしておこう思うんや。ワシの仕事のな、施主さんの意向をじっくり聞いたうえで、工務店との間に入って最上のもを提供してき たっちゅう、そういう仕事をさしてもろてきたっちゅう、

チエコ これやからオトコのひとのゆうことはわからんわあ。

タカシ わからんか。

チエコ わかりません、プライドとか、そういうもん、

タカシ プライド、うーん、

チエコ 家うち) のもな、偉そうにゆうんや。無職無収入で日がな一日、家でごろごろしててくせに、

タカシ 定年まで勤め上げたんや。

チエコ おにいちゃんも定年、

タカシ ワシは自営やから退職金に縁はないわ。

チエコ そやからあの煤けた看板おろし。

タカシ 看板はワシの生きてきた証や。証という漢字はな、灯(あかり)ちゅう意味があるそうや。看板に灯をもしちゃあるんや。消したら生きてないのとおんなじことになる。

チエコ 家(うち)のがな、自分の仕事がどんだけお国のお役に立ってきたかって偉そうにゆうんや。自分とこの会社がなかったら使用済みの核燃料の再処理、どこですんねんとか。自分とこの会社、自分の会社とちゃあうやろ、いつ社長になったんやっちゅうねん。偉そうに。それが突然、なんか老後の趣味を持ちたいから、料理教室にでも通おうかな、やて。なに寝ぼけたことゆうてんねん、いっぺんも台所に入ってウチの手伝いしたことないくせに。男の料理教室、フランス料理やて。そんなもん家で食いたないわ、なあ、

タカシ ……チエちゃん、

チエコ ……はい、

タカシ クチ悪いなあ、

チエコ 怒られるんかと思うた。

タカシ 思うてることはつきりゆうとこ、それがチエちゃんのええとこやろな。

チエコ よかった。おにいちゃんがそうゆうてくれるんやったら、これからもどんどんゆわしてもらわ。

タカシ たいがいにしといちゃってよ。

チエコ はいはい、

タカシ 盆やのに家に居ちゃらいでもええのんか。

チエコ 盆やさかい娘らが家うち)に帰ってきてるがな。今からお母ちゃんを車で連れて帰って、孫とひ孫の顔、拝ましちやるんや。

タカシ そら樂しみやなあ、今のうちに拝ましちやって。そのうち拝まれるようになるんやさかい。

チエコ ウチもはよ樂になつて拝まれないわ。ほな、お茶な、水分よう摂らなあかんしな、しっかり飲むようにするんやで。

タカシ あ、すまん、茶も出さんと。

チエコ 家うち)で飲む。

チエコ、外へ出た。

ふと立ち止まり、改めて看板を見て、

チエコ(独りごとで)おにいちゃん、自分の作った家も、もう何軒か真っ黒に塗りつぶしてしまちゃあるんやろ。それともう、灯、消えかけてるんやんか。

チエコ、退場した。

(10)

突如として音楽ふ 『思い出の渚』ザ・ワイルドワンス)が大音量で鳴り響く。

君を見つけたこの渚に

一人たたずみ思い出す

小麦色した可愛い頬

忘れはしないいつまでも

波に向かって叫んでみても

もう帰らないあの夏の日(作詞・鳥塚繁樹)より、一部抜粋。

鮮烈な光り輝く青空の下、

サトル おーい、タカっちゃーん、

タカシ 顔をあげ、

タカシ なんやあーっ、

サトル すまんよーっ、

タカシ なにがすまんのやーっ、

サトル ごめんよーっ、ボク、タカっちゃんに怒られやならんのやーっ、

タカシ なにを怒るんやーっ、

サトル トヨコはーっ、トヨコはなあーっ、ええかーっ、タカっちゃんのが好きやっ
んやあーっ、

タカシ なんやてえーっ、

サトル 好きやったんやーっ、許してくれえーっ、ボク、知ってたんやあーっ、

タカシ、椅子から立ち上がろうとしてもがくが、立ち上がれない。

音楽2、カット・アウトされ、

唐突に世界が影に襲われた。

クロス サトルは十五年前にすい臓ガンで亡くなった。

サトルの母も、息子の後を追うように逝き、

その家は、

今では住むひとのいない廃屋である。

兄が帰ってくるといううわさも流れたが、結局そういうことはなかった。

音楽3。

クロス トヨコは高校を卒業したその夏に亡くなった。

白血病だった。

高い塀に囲まれた屋敷では、両親がひっそりと暮らしていた。

それもやがて老母だけの住まいとなり、

親戚の者によって老人ホームへと送られた。

かつては丁寧に手入れされていたモネの庭は、

濃緑（こみどり）の樹木が山と成し、

家屋を侵食してゆく。

音楽3、フェイド・アウト。

サトル タカっちゃん、ブランコ、見に行くか。

タカシ あ、いや、ええ、
コウジ 思い出してるやろ。

サトル ……そら、な、

タカシ なんか、…なにを思い出してるんやろ、
コウジ 記憶の奈落から引っ張り上げてみようや、大切な記憶。ジブンらふたりとも、さあ、
なにを思い浮かべる？

サトル 大切な記憶、ボクはなあ、ボクは、そやな、おだやかな笑顔を思い浮かべてる。
心の底から安心できる、おだやかな笑顔。

コウジ お母ちゃんやろ、

サトル ちゃいますよお、

コウジ ほな、だれのや。

サトル それは秘密です。うら若き女性が愛おしそうにボクを見つめている。ボクは幼鬼お
さなご) になった。

コウジ どこが秘密やねん。

タカシ サトルちゃん、それはええ思い出やろ。楽しい記憶やろ。

サトル そやな、幸せなな、やっぱりな、ボクにもな、あるもんなんやな、

コウジ ワイは、ずばり、肌のぬくもり、や、どや、

サトル 肌のぬくもり、て、さすがコウジさん、幾人もの女性を泣かせてきました、この
っ、色オトコ。

コウジ ニンゲンは生きてるんや。血が通うてんのか。そういう、なんや、つながりや、
みんなで助けあおう、それがぬくもりや。

サトル さようございますか。

タカシ ふふふ、おだかな笑顔とか、肌のぬくもりとか、ふたりとも柄に似合わんロマン
チックなことゆうて、

コウジ タカちゃんこそ、今こそロマンチックにならな、

タカシ ふふ、ふふふふ、大切な記憶なあ、今こそ思い出す、そうやなあ、…やさし

い瞳、

ふたり キャーっ、

タカシ そんな声出されたら恥ずかしゅうなるやないですか。

サトル トヨコのか、アイツやさしい瞳しとったか、

タカシ ワシの人生を、幸福な人生やったと思わしてくれみんなの、やさしい瞳。そやけ
ど、そやけどや、サトルちゃんのゆうたおだやかな笑顔も、コウジさんのゆう肌の
ぬくもりも、ワシの、やさしい瞳も、みんなおんなじやと思いませんか。おんなじ
ですよ。みんなおんなじ、おんなじものを指してる。おんなじことをゆうてる。

コウジ そや、おんなじや。

サトル おんなじやな。

タカシ おんなじやーっ、
コウジ おんなじやーっ、
サトル おんなじやーっ、
コウジ よおし、

ふたりしてタカシの腰かける椅子の両側に駆け寄り、

コウジ (秋の祭礼、だんじり曳きのかげ声) そうりやっ、
サトル そうりやっ、
コウジ そうりやっ、
サトル そうりやっ、
タカシ なにするんですか、
コウジ ブランコやっ、
ふたり そうりやっ、・・・そうりやっ・・・、そうりやっ、前へ、前へ、前へーっ、上へ、上へ、上へーっ、空へ、空へ、空へ、空へーっ、

タカシ、立ち上がった。

音楽 4 「横山音頭」の二節) が、遠くから、かすかに響いてくる。
ああ、ふたりと一緒に遠くへ旅立つのだ。

コウジ どや、
タカシ 見えた、見えてきました。
サトル 見えた？ なにが見えた、
タカシ 提灯の明かり、揺れてる。この道をまっすぐ行くと盆踊りの広場。
コウジ そんな感じの晩や。蒸し暑い、
タカシ そんな感じの晩ですか。
サトル やたら寝苦しい夜、
タカシ そんな感じの夜ですか。
コウジ 行こか。
サトル 行こ。
タカシ その前に、・・・コウジさんから預かった預金通帳、
サトル 預金通帳？ コウジさんがなんでそんなもんを、
タカシ 返さな、
コウジ もういらんわ。
タカシ なんで、
コウジ しゃあないやろ。

タカシ　しゃあないんですか。

コウジ　ああ、しゃあないんや。

タカシ　しゃあないか・・・、

コウジ　しゃあない、

サトル　しゃあない。

コウジ　しゃあないしゃあない、

タカシ　コウジさん、コウジさんはなんでコウジさんなんですか？

サトル　タカちゃん、なにゆうてんの、お父ちゃんお母ちゃんからコウジて名前つけてもろうたさかいやろ。

コウジ　・・・ワイには兄貴がいた。

ふたり　・・・、

コウジ　そやさかいに、コウジや。わかるか？生まれてこられへんかった兄貴、

爆発音、しばらく。

音楽4は消えている。

タカシ　あれは夏の花火、それとも、

コウジ　瞬いてるんやな。

タカシ　瞬いてる、

サトル　行くで、

タカシ　列をなして風に揺れる灯（ともしび）、ええことも悪いことも、記憶は時間の思
うがまま。

うすぼんやりとした光が3つ、空間を彷徨っている。

コウジ　世界と、わがのカラダとの境界線が、

サトル　消えて、

ふたり　ゆく、

一瞬の間。

タカシ　あつ、ホタル、

照明がゆっくりとフェイド・アウトされはじめると、
時を刻む時計の音がフェイド・インしてくる。
やがて暗黒。

ややあって明かりがさすと、座る人のいない椅子がぼつんと浮かぶ。
時を刻む音、ヴォリューム・アップを続けながら、唐突に途絶える、
と同時に、照明カット・アウト。
再び暗黒。
了。

イ

※この戯曲は 「The Light Is Still Blinking」というサブ・タ
トルを持つ。

※音楽および照明のイン&アウトは、作者の演出プランによる。

※イントロダクションとシーン10にある爆発音には、空襲の
爆撃音を混入させたい。

上演記録

- ① 2022年9月11日
熊取ゆうゆう大学 「俳優・演劇講座」第7期生発表公演
演出＋舞台監督＋音響＋舞台美術・キタモトマサヤ
国指定重要文化財中家住宅にて

- ② 2023年3月24日から27日
遊劇体#65

演出・キタモトマサヤ

舞台監督・沢渡健太郎 劇団第一主義

照明・大沢安彦 RYU

音響・大西博樹

音楽・デイヴ・シンクレア

舞台美術・佐野泰弘 CO

タカシ・・・村尾オサム

サトル・・・中田達幸

コウジ・・・坂本正巳

トヨコ・・・大熊ねこ

チエコ・・・久保田智美

THEATRE E9 KYOTO 江戸

- ③ 2024年9月29日

くまとり劇倶楽部 「日輪草」旗揚げ公演

演出＋舞台監督＋舞台美術・キタモトマサヤ

音響・大西博樹

国指定重要文化財中家住宅にて